昭和小学校が文部科学大臣表彰
子どもの読書活動優秀実践校として

▲「父ちゃん読み聞かせ」に奮闘中

4月23日、「子どもの読書活動推進フォーラム」において、昭和小学校が文部科学大臣表彰を受けました。

これは、子どもの読書を推進する取り組みなどが優れている学校や図書館、団体（個人）を表彰するものです。

同校では、高学年から低学年に読み聞かせる「ペア学級読み聞かせ」やPTAボランティアによる読み聞かせなどの取り組みを実施したり、いつでも読書が始められるように、本を各教室に配置する工夫をしています。

平成28年度は1人平均237冊の貸し出しがあり、市が推進するハッピーブック運動でも全児童が目標冊数を達成するなど、学校全体で読書活動に取り組まれています。

応挙の名品が一堂に
円山応挙―京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展ふたたび―

▲学芸員の解説を熱心に聞きながら名品に見入る参加者

4月21日、春季特別展覧会 熊本地震復興祈念「円山応挙―京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展ふたたび―」の開会式が博物館で開催されました。この展覧会では代表作「牡丹孔雀図」や「七難七福図巻」、大作「大瀑布図」など、円山応挙の名品が一堂に展示されており、公開初日は関係者約70人が学芸員の解説を熱心に聞きながら名品に見入っていました。

同展覧会は、昨年に開催予定でしたが、熊本地震の影響で中止となり、その際、貴重な作品を1点も損傷することなく返却できたことから、相国寺・鹿苑寺（金閣）・慈照寺（銀閣）・大光明寺のご厚意でふたたび開催できることになりました。

※この展覧会は6月4日まで開催されます。

世界の宝　九州5つの祭りが集結
祭 WITH THE KYUSHU

▲登録認定証を手にする八代妙見祭保存振興会の濵大八郎会長（左）

▲天神に勢ぞろいした亀蛇、笠鉾菊慈童、笠鉾蜜柑とその参加者たち

5月13・14日、ユネスコ無形文化遺産にともに登録された九州5つの祭り（八代妙見祭の神幸行事、博多祇園山笠行事、戸畑祇園大山笠行事、唐津くんちの曳山行事、日田祇園の曳山行事）の出し物が歴史上初めて集結し、福岡市役所周辺で特別巡行を行いました。

これは「祭WITH THE KYUSHU」と題したイベントで、各県のPRも行われ、約18万人の人出でにぎわいました。

八代妙見祭の出し物が登場すると、沿道からは笠鉾の手の込んだ細工や豪華な飾りなどに魅了される声やユーモラスな亀蛇の動きに驚きの歓声があがっていました。

また、5月4日には、「八代妙見祭の神幸行事」保護団体の八代妙見祭保存振興会に文化庁長官から登録認定証が伝達されました。

やつしろの景色を満喫
第23回九州国際スリーデーマーチ2017

▲元気よく出発する参加者

5月12日から14日までの3日間、「第23回九州国際スリーデーマーチ2017」が開催され、約1万7000人のウォーカーが参加しました。

初日は天候不良によりコースの途中で中止となるハプニングがありましたが、2日目と3日目は天候にも恵まれ、自然の風景を撮影して楽しむウォーカーやチェックポイントでの「おもてなし」に笑顔がこぼれるウォーカーなど、さまざまな表情が見られました。また、会場内ではたくさんのイベントがあり、多くのお客さんでにぎわいました。

高田湧水コースを歩いた久我ゆめさん（八千把小4年生）は、「お母さんとしりとりしながら歩いたので、とても楽しかったです」と話しました。

初心者向けのバードウォッチング
球磨川河口「シギ・チドリ探鳥会」

▲渡り鳥を双眼鏡で覗き込む親子

4月16日、鼠蔵町の球磨川河口で「シギ・チドリ探鳥会」が行われ、家族連れなど約30人が参加しました。

熊本大学では、平成28年度から市民講座「八代まるごと自然体験」を開催しています。今年度の市民講座は、八代地域で14回開催される予定で、今回は日本野鳥の会熊本県支部と八代野鳥愛好会の主催で行われました。

参加者たちは、球磨川河口の鳥たちの生態や干潟の大切さを学習した後、現地で地球を旅する渡り鳥シギやチドリたちが、休憩し餌を採る姿を観察しました。

熊本地震を教訓に
震災から１年 防災について語ろう

▲心肺蘇生法に取り組む参加者

4月15日、松高自治協議会主催のもと「震災から1年 防災について語ろう」が、松高コミュニティセンターで開催され、地元住民ら約60人が参加しました。

避難所生活で苦労したことや改善すべき点などについて体験をとおして対話が行われ、「救援物資に限りがあり、子どもと高齢者を優先した」、「身内が車いすでの移動を余儀なくされているため、避難所での生活が不安であった」などの意見が交わされました。

また、災害時のビデオ上映や心臓マッサージ、AEDを使用した講習なども行いました。

熊本地震から１年
地域包括ケア推進住民講演会

▲災害時の避難所での健康被害について語る

4月15日、市公民館ホールで地域包括ケア推進住民講演会が開催されました。

石巻赤十字病院の植田信策呼吸器外科部長が、「避難生活の健康リスク（エコノミークラス症候群等）」と題して講演。東日本大震災を経験し、熊本地震では市内の避難所をまわり、たくさんのアドバイスをした経験を基に、「震災後は活動意欲や活動性が低下し、身体機能が衰える生活不活発病が多く発生します。体を動かし、美味しく食べて、たくさんみんなと話して、生活不活発病を予防しましょう」と呼びかけ、簡単にできる運動も紹介しました。

優しさと思いやりの心を育む
「人権の花運動」種子伝達式

▲児童代表者へ花の種子が手渡されました

4月25日、東陽小学校で全校児童や人権擁護委員などの関係者が出席し、「人権の花運動」種子伝達式が行われました。

これは、花の種子などを子どもたちが協力しながら育てることで、生命の尊さを体感し、優しさと思いやりの心を育むものです。

今回は、マリーゴールドやひまわりなど8種類の花の種各7袋、プランター90個、プランターステッカー90枚、土、肥料が贈られました。

児童を代表し、6年生の樋口果凜（かりん）さんが「種を大切に育て、成長した花からできる種を配ろうと思います」とお礼を述べました。

八代の海のレジャー開催
八代舟出浮き海開き式

▲乗船体験では伝統漁法を間近で見学

漁師と一緒に漁船に乗り込み、伝統漁法で獲った海の幸を無人島で味わう体験型レジャー「八代舟出浮き」の海開きが4月24日に内港大型舟溜りで行われました。主催の八代舟出浮き組合をはじめ、漁業関係者や観光関係者ら約100人が出席し、シーズン中の安全と繁盛を祈願しました。

八代舟出浮きは毎年4月から11月まで実施しており、季節に応じてイカ網、カニ籠、カレイ網などの漁法を行っています。

海開き式終了後は、一般公募で招待された20人が伝統漁法を間近で見学し、楽しみました。

ひたむきな野球人生
松中信彦 大講演会

▲「ひたむきな野球人生」を語る松中さん

4月22日、やつしろハーモニーホールで平成16年に八代市市民栄誉賞の第1号に輝いた、元福岡ソフトバンクホークス選手松中信彦さんの講演会があり、市内外の中学生や高校生の野球部など約350人が、熱心に耳を傾けました。

「19年間 夢と感動をありがとう 三冠王 松中信彦が歩んだ軌跡」と題したビデオ上映後に松中さんが登壇すると、会場内は割れんばかりの大きな拍手に包まれました。松中さんは、「人一倍努力を積み重ねることが重要であり、努力は嘘をつかないし、努力したものには敵わない」と話しました。

100歳 おめでとうございます

小庵 忠雄さん
（本野町）
大正6年5月4日生

本野町に5人きょうだいの長男として生まれ育った忠雄さん。

31歳の時に結婚し、4人の子どもに恵まれました。馬が好きで若い頃から50代頃まで競走馬を育ててレースにも出していました。甘い物が好物で、ぜんざいが大好きだそうです。また、最近はテレビを見ることも楽しみの一つで、水戸黄門をよく見るそうです。

長寿の秘訣は「心配事が何もないこと」。

茶業や茶文化の発展を祈願
泉町「献茶祭」

▲香りがよい平成29年産の新茶

5月2日、市役所泉支所で献茶祭が開催され、関係者約20人がお茶の収穫に感謝し、茶業や茶文化の発展を祈願しました。

今年の新茶は3月の低温の影響で一番茶の初摘みが例年より1週間遅れていますが、良質なお茶が育っているのでおいしいお茶が楽しめるとのことです。

神事後に一番茶を試飲した泉町茶業振興協議会の上田精一会長は、「今年は気温差が大きかったので、香りがよく味に深みがあり、おいしいお茶となっています。ぜひ、みなさんに飲んでいただきたい」と話しました。

優勝・入賞おめでとう
大会結果報告

▲水口雅基さん（中央左）と岩見詩さん（中央右）

3月26日～28日に石川県で開催された全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会に出場した八代農業高校の水口雅基（まさき）さん（2年）と岩見詩（うた）さん（3年）が、4月26日に市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に結果報告をしました。

水口さんは男子77kg級に出場し、スナッチ種目113kg、クリーン&ジャーク種目141kg、トータル254kgで優勝。岩見さんは女子53kg級に出場し、スナッチ種目62kg、クリーン&ジャーク種目73kg、トータル135kgで6位入賞。中村市長は「優勝・入賞おめでとう。今後も頑張ってください」と健闘を称えました。

母の日に最高のプレゼント
日奈久温泉　カーネーション祭り

▲温泉を楽しむ参加者

5月13日、14日の2日間で日奈久温泉カーネーション祭りと日奈久温泉内の7施設の女湯にカーネーションを浮かべる「カーネーション風呂」が実施されました。

これは、日奈久出身の若手地域おこしグループ「TeamI♡日奈久（チームアイラブひなぐ）」が、企画したもので、色とりどりの綺麗なカーネーションが風呂一面に散りばめられ、参加者は目と肌で温泉を楽しみました。また、日奈久ゆめ倉庫ではカーネーションや農作物の販売、園児たちによるキッズダンスなどのイベントも開催され、多くの来訪者でにぎわいました。

自分たちの住んでいるまちを描く
八代亜紀絵画コンクール展表彰式

▲八代亜紀賞と八代亜紀大賞に選ばれた皆さん

5月12日、やつしろハーモニーホールで第15回八代亜紀絵画コンクール展の表彰式が行われました。

今回は、八代市郡の一般、中高生から合計418点の応募があり、八代亜紀大賞1点、八代亜紀賞11点、入選15点、佳作79点の合計106点が選ばれました。

八代亜紀大賞に輝いたのは、尾村真優子さん（清流高校3年）の作品。近所のおじいさんの壊れた自転車を描いたもので、自分たちの住んでいるまちを描くとともにおじいさんに対する想いを描いているところが高く評価されました。

本庁仮設庁舎を花でいっぱいに
花いっぱい笑顔いっぱい運動

▲プランターに花を植えるスタッフの皆さん

5月8日、弘済会とコメリのスタッフの皆さんが市役所本庁仮設庁舎にベゴニア、カリブラコアの花など約150株植えました。

これは、花がいっぱいの庁舎にして、訪れる市民の目を楽しませ、心が明るく前向きになるような雰囲気を作ろうと、コメリ緑育成財団の助成事業を利用して行われました。

この日は、東棟と西棟の駐車場側に花を植えたプランターを配置し、駐車場入り口には地植えをして本庁仮設庁舎を花で飾りました。

弘済会の江口亨さんは「花を見ることによって、笑顔になってほしい」と話しました。